

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 30 日現在

機関番号：32683

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24720136

研究課題名(和文) 19世紀後半における「アメリカ詩」の確立とインターナショナリズム

研究課題名(英文) The Transnational Construction of American Poetry in the Late 19th Century

研究代表者

貞廣 真紀 (Sadahiro, Maki)

明治学院大学・文学部・准教授

研究者番号：80614974

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：従来、南北戦争後のアメリカ文学はリアリズムの時代に区分され、小説がその研究の中心であったが、本研究は、Herman MelvilleやWalt Whitmanの詩作品をE.C. Stedmanらの批評言説と対照させることによって、南北融和を達成し帝国化しつつあるアメリカにおける詩文化の重要性とアメリカの文化的ナショナリズムを明らかにした。その際、環大西洋文化交流がアメリカ詩の制度化に重要な役割を果たした点についても明らかにし、グローバルマッピングにおける「アメリカン・ヴィクトリア詩」の位置を捉え直すことに貢献した。

研究成果の概要(英文)：The present study re-examines the growing significance of poetry in US culture, in the age of novelistic realism that flowered after the Civil War. By exploring the literary criticism produced by a leading American critic, E.C. Stedman, and poetry written by Herman Melville and Walt Whitman, I have demonstrated that Stedman's attempt at the canonization of American poetry enforced the growing cultural nationalism with a poetic vision of the coherent American past. The present study also reveals that the transatlantic literary exchange played a significant role in the process of institutionalizing American poetry, and thereby contributes to articulating the position of American Victorian poetry in the global context.

研究分野：American literature

キーワード：American literature transatlantic

1. 研究開始当初の背景

南北戦争中、戦後を通じておびただしい数の詩が出版されてきたにもかかわらず、Fireside Poetsをはじめとする19世紀アメリカ詩は「ジェンティール・トラディション」に位置づけられ、イギリス文化の影響を脱却していないという理由で20世紀以降ほとんど評価されてこなかった。近年、文学史編成の動きの中で、Paula Bennett が *Poets in the Public Sphere* (2003)において広範な一次資料をもとに、新聞、雑誌を中心とした女性詩人の活動を文学史に位置づけようとした他、Angela Sorby が *Schoolroom Poets* (2005)において、また Mary Loeffelholz が *From School to Salon* (2004)において、20世紀モダニズムの美学から19世紀詩を検証することの限界を指摘し、19世紀に特徴的な詩学を教育との関係から論じている。アイロニーを基調とするモダニズム詩とハイ・カルチャーの発生を辿りながら19世紀詩を逆照射する彼らの試みは近年のアメリカ詩研究の大きな成果の一つである。

これらの研究にさらに発展させるべき点があるとすれば、それは19世紀「アメリカ」詩文化空間を再構成する際、彼らが「アメリカ」の概念を固定的、画一的に捉えていた点にある。つまり、従来の研究においては詩のカルチュラル・ワークが、国内の詩の出版、流通、活用の観点から解明されており、南北戦争以降に生じた劇的な社会変動のトランスナショナル、ないしインターナショナルな側面（移民の流入による言語の多様化、中東や極東旅行の活発化、国際著作権の成立など）が十分に考慮されていない。また、戦後、急速に顕著になった地方主義と国際主義の平行な関係についても十分に考察されているとはいいがたい。しかし、国家再建期から世紀転換期を通じて、南北セクショナリズムを超越するためのナショナリズムの勃興と、国家領土拡張を目指す傾向は共犯関係に

あり、「アメリカ詩」もまた、そうした社会の中で生成され、社会や文化に影響を及ぼしていたと考えられる。本研究は、環大西洋交流に関して常に先導的役割を果たしてきた Paul Giles や Meredith L. McGill の方法を参照しながら、19世紀アメリカ詩を国際関係、とくに環大西洋文化交流の文脈に再定位させる試みである。

2. 研究の目的

本研究は、南北戦争終結から1890年代にかけて、E.C. Stedman や Sidney Lanier といった詩人・批評家によって展開された「国民文学運動」を調査し、「アメリカ詩」がどのように「アメリカ」と「アメリカ国民」の理念の形成に携わったのかを考察するものである。従来、1840年代のヤング・アメリカ運動については多くの議論がなされてきたが、「アメリカ詩」を基軸に据えた南北戦争後の国民文学についての批評活動はあまり着目されてこなかった。従って本研究の目的は、戦後復興、建国100周年を経て、アメリカが空間的に拡張し、文化的多様性を内包しながら近代国民国家として成立する過程で、詩的言説をどのように利用し、何を抑圧しながらアメリカ文化を規定していったかを検証することにある。具体的な目的は以下の通りである。

(1) 19世紀アメリカ詩の文化史上の位置づけに関する問題提起を行う。従来は小説を対象として検証されてきた南北戦争後から世紀転換期にかけての「アメリカ」像とその変容を、本研究は「詩文化」の面から解明する。特に、アメリカ19世紀詩研究は Dickinson と Whitman の詩人研究に重点が置かれてきたが、Fireside Poets や Herman Melville の詩作品に着目し、文化史の観点から19世紀詩の再評価を行う。

(2) 南北戦争後アメリカのグローバルマッピングにおける位置の解明を行う。本研究では Paul Giles や Paul Gilroy の問題提起を継承し、環大西洋空間の観点から「アメリカ」像を再構成する。具体的には「ヴィクトリア詩」がアメリカの批評家 E. C. Stedman が“New Americanism”運動と呼ぶ文学運動の中から生まれた点を重視し、イギリスとアメリカ文化の影響関係を双方向的にとらえる。また、移民流入に代表される国内の社会問題が詩にどのように表象されているかを考察し、世紀末以降に急速に覇権を拡張していくアメリカ像が詩文化の中でどのように準備されていたかを考察する。

3. 研究の方法

本研究は南北戦争以降のアメリカ文化における「詩」の概念の重要性と、それに支えられるアメリカの文化的「ナショナリズム」を国際文化交流の視点から捉えなおす試みである。具体的な研究方法は以下の通りである。

(1) 英米雑誌のアーカイブを利用し、南北戦争をきっかけに急速に発展をとげた雑誌文化の中でアメリカ史観がどのように形成されたのかを検証を行った。特にアンソロジー文化によって国家のビジョンが形成された文化背景を調査し、具体例として Herman Melville と Walt Whitman の南北戦争詩集を分析した。

(2) 南北戦争後の時代に活躍したアメリカの批評家 E. C. Stedman の活動を調査し、特に彼が編纂したアンソロジー出版によって可能になった環大西洋空間における詩文化交流と「アメリカ詩」の誕生について検証した。

(3) 19世紀のイギリスを中心に発展した社会現象や改革運動についても平行して調査

を行い、その中で生まれたアメリカン・ルネサンス作家のリバイバル現象について調査を行った。それによって、南北戦争以後の「アメリカ詩」の発生と文化ナショナリズムを、イギリスの側から、より広範囲な環大西洋関係の文脈に位置づけることが可能になった。

4. 研究成果

(1) Whitman や Melville を始めとする南北戦争詩および戦時中の雑誌文化、アンソロジー文化についての調査を行い、文学テキストによって南北戦争史観と国家観がどのように形成されてきたか、また、北部主導の南北戦争史観の固定化に対する抵抗があったことを検証した。

(2) 戦後の南北和解文化の中で形成されたナショナリズムを再考察し、その中で「詩文化」の役割について検討を行った。E. C. Stedman の批評活が同時代詩人に与えた影響についてはいまだ本格的な研究が存在しなかったが、Stedman が *Victorian Poetry* (1875)、*Poetry of America* (1885)の両著作、ジョンズ・ホプキンス大学講演、および Library of America シリーズの出版を通じて確立しようとした「ニューアメリカニズム」運動、すなわち「アメリカ詩」を通じたアメリカのナショナリズム運動が環大西洋空間の競争意識を利用したものであることが明らかになった。また、彼と交流のあった Herman Melville の詩集 *John Marr and Other Sailors* (1888)に見られるナショナリズムの影響とアンビバレンスを検証することができた。

(3) Stedman の批評、Fireside Poets に数えられる John Greenleaf Whittier、Herman Melville の *Weeds and Wildings* を検証し、ニューイングランド・リバイバル(リージョナリズム)や「アメリカ詩」の制度化について分析を行った。戦後の急速な領土拡大と移民の

流入といった社会的不安定要因の増大を、ニューイングランド・リバイバル(リージョナリズム)や「アメリカ詩」の制度化によってバランスを取ろうとしていた可能性を検証した。また、「バラッド」ジャンルについて調査することで、スコットランドとアメリカを重層的に見る視点の存在を検証し、さらに、アングロ・サクソニズムに牽引されるリージョナリズムが、逆に、ニューヨーク入植のオランダ起源を再考するきっかけともなったことを明らかにすることができた。

以上、(1)(2)(3)によって、本研究は、19世紀後半、雑誌メディアの発展と環大西洋文化交流によって多層的に形成される「アメリカ」像を解明することに貢献した。

5. 主な論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

Maki Sadahiro, The Transatlantic Melville Revival and the Construction of the American Past, Sky-Hawk (日本メルヴィル学会) 有、2、2014、44-63

貞廣真紀、メドゥーサの夢——メルヴィルの南北戦争、フォークナー、無、16、2014、60-78

貞廣真紀、John Marr and Other Sailors における匿名詩人のナショナリズム、れにくさ(東京大学現代文芸研究室) 有、5(3)、2014、43-69

〔学会発表〕(計 4 件)

Maki Sadahiro, Harnessing National Celebrity: Melville Revival, Transatlantic Animosity, and Construction of National Literature, University of Portsmouth, 2014年7月4日、「ポーツマス(イギリス)」

Maki Sadahiro, Civil War Monuments Created by Ephemeral Media, University of Toronto, 2014年5月15日、「トロント(カナダ)」

貞廣真紀、南北戦争を語ることについて、日本フォークナー協会、2013年10月11日、「立教大学(東京)」

貞廣真紀、メルヴィル晩年のスタイル、日本メルヴィル学会、2013年9月15日、「専修大学(東京)」

〔図書〕(計 1 件)

貞廣真紀 他、ミネルヴァ書房、もっと知りたい名作『白鯨』、2014年、11

6. 研究組織

(1) 研究代表者

貞廣 真紀 (SADAHIRO, Maki)

明治学院大学 文学部・准教授

研究者番号：80614974